



スポーツ振興くじ助成事業

平成 25 年度 九州ブロッククラブネットワークアクション 2013

開催報告

日時： [1 日目] 平成 25 年 11 月 9 日（土） 13：00～17：00

[2 日目] 平成 25 年 11 月 10 日（日） 9：15～12：30

会場：佐賀勤労者総合福祉センター(メートプラザ佐賀)

内容：

[1 日目]

- 開会行事
- 基調講演 「元気なクラブを目指して」
- 演習・グループディスカッション（創設支援クラブ・自立支援クラブ他）
「クラブの現状を見つめよう！」
- 全体説明 「不正防止・助成金の有効活用について」

[2 日目]

- 演習・グループディスカッション（5 ブース×3 セッション）
「クラブへの処方箋」
- 全体会・リレートーク
- 閉会行事

【概要】

本年度の九州ブロッククラブネットワークアクションは、九州各県の創設支援クラブと自立支援・クラブマネジャー設置支援クラブ他が一堂に会し、総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」）が抱える諸課題について、様々な角度から意見交流を行い、参加者が自らの手で課題解決の糸口を掴む機会を企画した。

第1日目は、まず、基調講演を実施し、開催地を代表するクラブであるサガン鳥栖より、クラブの理念や地域における役割等について情報提供を受け、その後、参加者は、クラブ診断シートを活用し、日頃のクラブ運営を「理念」、「事業」、「財政」、「意志決定」、「事務局」という5つのキーワードから自己分析し、各総合型クラブの課題を客観視する作業に取り組んだ。

第2日目は、「クラブへの処方箋」と題し、クラブ診断シートの5つのキーワードを基に各ブースを開設し、参加者はこの内3つの希望ブースでディスカッションを行った。最後に、各県代表委員によるリレートークを実施し、各県連絡協議会の現状や課題、九州クラブネットワークアクションやSC全国ネットワークへの期待や要望等について情報発信、意見交換を行った。

【討議内容】

【1日目】

【基調講演「元気なクラブを目指して」】

佐賀県鳥栖市をホームタウンとするサッカーJリーグ ディビジョン1「サガン鳥栖」の運営会社である、株式会社サガンドリームス代表取締役竹原 稔 氏から、サガン鳥栖の基本理念「人づくり、街づくり、夢づくり」が紹介され、サガン鳥栖のサポーターと共に地域づくりに貢献する取り組みが披露された。この中で、サガン鳥栖のサポーターであることの価値を高めるブランディングやリーダー育成の必要性が語られた。「チーム」→「サポーター」→「地域」→「チーム」というスパイラルな関わりが、それぞれの当事者に「誇り」を抱かせ、クラブや街を元気にしていくことについて具体的な取り組みを報告された。

【演習・グループディスカッション「クラブの現状を見つめよう!」】

クラブ診断シートの利用法について、福岡県クラブアドバイザー 内田 満 氏から全体説明を行い、その後、創設支援クラブと自立支援・クラブマネジャー設置支援クラブ他とに会場を分かれ、シートを利用した自己分析により、各総合型クラブの課題確認を実施した。

創設支援クラブは、鹿児島県、沖縄県、熊本県の3名のクラブアドバイザーが進行を担当し、「理念」、「事業」、「財源」、「組織」、「規約」、「設立総会」の各ポイントで現状の自己評価に取り組んだ。

自立支援・クラブマネジャー設置支援クラブ他は、福岡県クラブアドバイザーが担当し、評価・運用マニュアルに掲載されている補足資料を活用しつつ、各総合型クラブの自己評価を促した。

その後、各会場では、翌日の希望ブースを選択する作業を行った。参加者は、各自3つの希望ブースを記入したアンケート用紙を提出し、演習を終えた。



【全体説明 「不正防止・助成金の有効活用について」】

公益財団法人日本体育協会 小林 寛地域スポーツ推進部長より、「不正防止・助成金の有効活用について」と題し、情報提供を行った。この中で、toto 助成金の適正な支出と経理処理、toto 助成終了後を見越した適正な会費設定の必要性、昨今の不正行為の状況等について触れ、最後に「様々な不正行為が、スポーツ活動全体に対する信頼を揺るがしていること」、「今後、不正には助成金の返還だけでなく、刑事告発も視野に入れた対応を検討していること」等についても話が及んだ。参加者一同、心を引き締め、真剣に話に耳を傾けていた。

【2日目】

【演習・グループディスカッション「クラブへの処方箋」】

「クラブへの処方箋」と題した本プログラムは、参加者による各ブース巡りという形式で進められた。設定された各ブースは、「理念」、「事業」、「財政」、「意志決定」、「事務局」という5つである。さらに、別紙資料1にあるように全部で15グループが設置され、1グループ約10～12名程度のグループディスカッションが行われた。

各グループに任命されたファシリテーターとパイロットは、参加者のディスカッションをリードする役割を担当した。参加者は、1回約25分間のセッションを3回体験し、各クラブの悩みやクラブ経営等に活かせる情報を収集されていた。

最後に、各ブースの協議内容について、各ブース全体進行担当者から報告がなされた。その一部が下記の内容である。

〈 明確な理念 〉

- ・ 理念の検証とその指標
理念の達成についてどのように検証していくのか、その指標を設けておくこと
- ・ 理念を伝える力＝地域を巻き込む力
- ・ 理念に賛同した会員がクラブを支えてくれるスタッフへ

〈 継続的な事業展開 〉

- ・ 資金獲得型の事業も大事！
- ・ クラブ同士の交流や協働イベントの開催

〈 財政的自立 〉

- ・ 多様な仕掛け
多様な収入源だけでなく、減免や委託事業の受け皿となれるクラブづくり

〈 自立的な意志決定 〉

- ・ 協働した意志決定
行政や体協組織等と地域のスポーツについて話し合おう
- ・ 事務局、理事会（運営員会）、総会の各機能の意志決定事項、権限を明確に定めよう

〈 事務局体制 〉

- ・ 一人で抱え込まずに役割分担を！
- ・ 事務局担当者が地域と顔が見える関係に！

【全体会・リレートーク】

NPO 法人北九州スポーツクラブ ACE
上村英樹氏へ進行を依頼し、NPO 法人 Web
スポーツクラブ 21 西国分クラブマネジャー
櫻木英一氏がリレートークのコーディネー
ターを担当した。ステージ上には、九州各県
の代表委員他が登壇し、各県連絡協議会
の取り組み、事務局の設置状況や会費徴収の
情報等について情報提供がなされた。各県
により様々な状況があるものの、総合型
クラブ交流会で多くの参加者を集めてい
る事例や県下をいくつかのブロックに分け
、研修会や交流会を実施している事例等
が紹介された。



九州ブロッククラブネットワークアクションへの期待・要望では、今後、このように九州
ブロックで、総合型クラブが一堂に集う場をつくることの意義について共通理解を図ること
の大切さや、事務局づくりや規約等について研究する必要性が唱えられた。

SC全国ネットワークへの要望では、総合型クラブの広報活動やPR方法の工夫等、今後
より一層の先見性を持って、取り組んでいただきたいという意見が寄せられた。

【まとめ】

本年度は、九州各県の創設支援クラブと自立支援・クラブマネジャー設置支援クラブ他が
2日間の日程を共に過ごし、情報交換を行うことができた。

どのプログラムも、素晴らしい内容であったが、特に「クラブの現状を見つめよう!」で活
用したクラブ診断シートや「クラブへの処方箋」の中で取り組んだグループディスカッショ
ンは、好評であった。本事業では、今後とも参加者同士の情報交換の場として、グループデ
ィスカッションを積極的に取り入れると共に、その質を向上させたいと考える。

また、クラブ診断シートは、公益財団法人日本体育協会から提供された「総合型地域スポ
ーツクラブの自立・自律に向けたチェックリスト」と共に各県で活用され、日頃のクラブ経
営で悩みを抱えられている総合型クラブに活用していただきたいと考える。

九州ブロッククラブネットワークアクション2013
実行委員長 中村 忠紀